

「聖霊を注がれる。」 使徒の働き2章1～6、14～21節

多くの人々は、自分勝手に生き、考えていて、天国があるなら、自分はそのままだと信じています。他の国に行くときには、パスポート・入国査証（ビザ）・出入国カードが必要で、更に学んだり、働いたりするときには、その許可証が必要です。そのチェックで、犯罪歴や渡航歴などが調べられ、入国審査では、入国の目的・滞在期間・滞在先などが確認されます。イスラエルへの渡航歴があると、アラブ・イスラム諸国では入国が拒まれることがあるので、イスラエルに入る時には、パスポートに入国スタンプを押されないように頼むことが普通です。イスラエルの出入国審査は、セキュリティ対策もあり、非常に厳重です。過去に同行した青年が、出国審査で2時間以上も掛かり、待っていた私たちは先に行くように指導されたことがあります。要するに、入国時はきちんとした身なりだったのに、帰りは楽だろうと考えて、刺青を見せる半袖の服だったのです。

地上の国でも入国手続きは困難なものです。日本人は、最も外国に行くことが容易な国ですが、神の国に入る手続きを経ている人は最も少ない国かもしれません。

主の弟子たちも、安易に神の国に行けると考えていました。しかし、十字架に掛かる主を裏切り、弟子であることを否定して隠れていたところに復活の主が現れました。先週お話ししたように、復活の主に会うほどに、彼らは自らの罪深さにおののいたことでしょう。

魂の救いは、自らの内に救いを得る何ものもない罪人であることを認めて悔い改め、ただ救い主イエスを見上げて救いを求めることによって恵みによって得られるものです。

イエス様は、「**聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。**」（使徒1・8）と約束されました。その力は、「エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となりませう。」（同）という伝道の力です。

クリスチャンが弱いのは、聖霊に満たされていないからです。聖霊に満たされていないのは、祈らないで悩むからです。祈ると言って、祈っていないのです。祈りながら神のことを思わず、神の霊に満たされることを願わず、どうしたら良いかと思ひ煩うのです。それは祈りではなく、思い煩いです。なぜ、思い煩うのでしょうか。それは、問題を自分の力で解決しようしたり、原因を探ったりするからです。それでは解決できません。神に解決を求めず、努力や知恵、知識で解決しようとしません。そして、人を責め、人に努力を求めるのです。それでも信仰者で

クリスチャンが祈らなければ、ただの人です。祈り聖霊に満たされれば神の人です。この違いは大きいのです。イエス様は、「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。」（同1・4）と忠告されました。なぜ祈らないのでしょうか。我が強いからです。この弟子たち以上に信仰を安易に考えているのです。

思い煩うのも、我が強いからです。「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。」（ピリピ4・6）。思い煩わないで、感謝をしなければなりません。自分を神に明け渡すのです。

イエス様の昇天十日後のペンテコステの日も、弟子たちは同じように2階座敷で祈りに専念していました。「すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。」（2・3）。

「聖霊によるバプテスマを授けられ」（使徒1・5）たのです。この日が教会の成立の日です。教会は、聖霊に満たされることによって成立し、存続するのです。そして、その構成員が神の国に迎え入れられるのです。

「約束の聖霊によって証印を押されました。聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。」（エペソ1・13.4）。

受洗者証はパスポートであり、聖霊のバプテスマこそ、その証印です。パスポートは海外では常時携帯しなければなりません。この地上では、私たちは、常時聖霊に満たされていることが必要です。

聖霊のバプテスマとは何かと教派によって異なります。私たちアッセンブリー教団は、聖霊のバプテスマを受けた「証拠」として「異言を語る」ことを教理としています。それは、この場面で現れる「言語としての異言の賜物」とは本質的に同じですが、解釈を必要とせず、自分の舌で神を賛美する体験として捉えています。「異言を語る人は、人に向かって語るのではなく、神に向かって語ります。だれも理解できませんが、御霊によって奥義を語るのです。」（Iコリント14・2）。「異言を語る人は自らを成長させます」（同3）。「私はあなたがたの誰よりも多くの異言を語っていることを、神に感謝しています。」（同18）。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛を持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそキリストは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

使徒 2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らが座っていた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人ひとりの上にとどまった。

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろなことばで話し始めた。

2:5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国々から来て住んでいたが、

2:6 この物音がしたため、大勢の人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、呆気にとられてしまった。

2:14 ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々に語りかけた。「ユダヤの皆さん、ならびにエルサレムに住むすべての皆さん、あなたがたにこのことを知っていただきたい。私のことばに耳を傾けていただきたい。

2:15 今は朝の九時ですから、この人たちは、あなたがたが思っているように酔っているではありません。

2:16 これは、預言者ヨエルによって語られたことです。

2:17 『神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。

2:18 その日わたしは、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。すると彼らは預言する。

2:19 また、わたしは上は天に不思議を、下は地にしるしを現れさせる。それは血と火と立ち上る煙。

2:20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、太陽は闇に、月は血に変わる。

2:21 しかし、主の御名を呼び求める者はみな救われる。』

Act2:1 When the Day of Pentecost had fully come, they were all with one accord in one place. 2:2 And suddenly there came a sound from heaven, as of a rushing mighty wind, and it filled the whole house where they were sitting.

2:3 Then there appeared to them divided tongues, as of fire, and one sat upon each of them. 2:4 And they were all filled with the Holy Spirit and began to speak with other tongues, as the Spirit gave them utterance. 2:5 And there were dwelling in Jerusalem Jews, devout men, from every nation under heaven.

2:6 And when this sound occurred, the multitude came together, and were confused, because everyone heard them speak in his own language.

2:14 But Peter, standing up with the eleven, raised his voice and said to them, "Men of Judea and all who dwell in Jerusalem, let this be known to you, and heed my words. 2:15 "For these are not drunk, as you suppose, since it is only the third hour of the day.

2:16 "But this is what was spoken by the prophet Joel: 2:17 'And it shall come to pass in the last days, says God, That I will pour out of My Spirit on all flesh; Your sons and your daughters shall prophesy, Your young men shall see visions, Your old men shall dream dreams.

2:18 And on My menservants and on My maidservants I will pour out My Spirit in those days; And they shall prophesy.

2:19 I will show wonders in heaven above And signs in the earth beneath: Blood and fire and vapor of smoke.

2:20 The sun shall be turned into darkness, And the moon into blood, Before the coming of the great and awesome day of the Lord. 2:21 And it shall come to pass That whoever calls on the name of the Lord Shall be saved.'